
東方酒星記

先日二番星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方酒星記

【Nコード】

N1687P

【作者名】

先日二番星

【あらすじ】

幻想郷に住む半人半鬼、道上蓮華と東方キャラのほのぼの系ギャグ小説。

某サイトが閉鎖してしまったので、リメイクとしてこちらに書かせてもらいます。

（蓮華プロフィール）

誕生日 作者と一緒。

好物 酒（洋酒から日本酒まで）

苦手 勉強、真面目な人

特技	一気飲み 建設
能力	衝撃を操る程度 の能力
自慢	自宅の酒蔵。自分 専用の居酒屋も ある。
性格	大雑把、変態、豪 快

巫女と白黒と半鬼 1

幻想郷。

俺は生まれた時からここにいる。

そう言っても、能力は後天性だったし、生まれた時から半鬼ではなかった。

詳しい話は後だ。なぜなら今、俺の状況は……

「待ちなさい蓮華！待たないと斬るわよ！」

「待つても斬るだろ！巫女のくせに包丁をふりまわすな！」

……紅白の巫女「博麗霊夢」に追いかけてるという、最悪の状況だ。とか言ってる場合じゃない！

鬼の力でも包丁は痛い。死なないが。

ちなみに俺の年齢は2010歳だ。人間の見た目で19ぐらいだがな。ってグハア！

……本気で刺された……血が……

「やっとなつかまえたわよ！八つ裂きがお望みかしら！」

「勘弁してくれ……壊したふすまはしつかり直すから……」

背中 of 傷口にザクザク刺してくる。やめてください痛いです。

「それにしても……」

血まみれ涙目になりながら聞いてみる。

「先月の賽銭はいくらだったんだ？」

「……………102円。」

「は？」

102円？嘘だろ？

「そんなに貰えたのk」

「黙りなさい！」

ゴフウ！

「やめろ！俺は じゃない！どっちかって言うところだ！」

はあ……まったく仕方がない巫女さんだ……

巫女と白黒と半鬼1（後書き）

どうでしたでしょうか。

出来る限り週一で投稿していきかつネタ切れにならないようにがんばります。

よろしく願います。

巫女と白黒と半鬼2（前書き）

ということで早速遅れてしまった上に、パソコンが使えないのでDSからの投稿となり少し文が少ないです。ご了承ください。

巫女と白黒と半鬼2

しばらく俺より鬼なのではないかという巫女と格闘していると、

「おい霊夢ー！、蓮華ー！」

大変元気な声が聞こえてきた。

恐らくこちらに突っ込んでくると直感的に、予想した俺は、

グイッ

ポイ。

俺の血でまみれた霊夢を、声の方向へ投げ捨てた。

……… 最初から投げ捨てとけというつつこみは、絶対に受けない。

「ちょ、キヤアアアアア！」

「え？、うわ！霊夢！こっちに来るな！」

ガンッ！

……… 思いつきり痛そうな音がした後、

激怒した紅白と、呑気に頭をさする白黒がこっちにやってきた。

「よくわかったな、ぶつかりにくるって。流石鬼の直感。」

「痛いわね！何するのよ！」

二人がお互いの感情をぶつけてくる。

うーむ……… 対照的なかわいさd

「聞け！」

霊夢さんすいませんでした。だからそのスペルカードをしまってください頼みます。

あんな危険な戦いやつてられるか。受けたくもないし女の子にスペルカードで攻撃したくもない。

……… 一応スペルカードは持っているが。

因みに俺のスペルは、三衝蓮華という、あの一本角の鬼のスペルカードをモチーフにしたのとかがある。

まあ似てるのは名と構えだけ。

弾幕は全くの別物だ。

……誰に言っただかわかんねえセリフを呟いてると

「で、魔理沙はなんのために来たの？」

霊夢が話を本題に戻す。

「ああそつだパチエリーが「レミイがあなたと弾幕ごっこがしたいと言っていたわ」だよ。」

俺と？

「拒否権はないつてよ。」

なんだつて？吸血鬼のお嬢様が俺と弾幕ごっこ？あまりに不釣り合いだろ。

……俺が不利な方で。

はあ…仕方ない…気が進まないんだが

「スマン。お前らも一緒にきてくれ。俺一人じゃ無理だ。」

咲夜さんのコーヒー飲みに行くか。

巫女と白黒と半鬼2（後書き）

どうでしたでしょうか。

各話3章ずつぐらいで、やっていきたいと思います。

今回の話はこれでおしまいです。

次回は、

紅魔編です。よろしくお願いします。

紅と半鬼と吸血鬼1（前書き）

PCが使えないためまた遅れました。すみません。

紅と半鬼と吸血鬼 1

はあ……

なんで俺が……

「で、」

「ん？」

「なんで霊夢が俺の背中に？」

そう、何故か知らんが、霊夢が俺の背中で寝てるんだ。で、手がやらしい。どこ触ってた。

「眠いから着くまで寝るって。」

呑気に言うなコノヤロウ。俺は今犯罪者的な手に理性を破壊されそうになっているのに。

ちなみ俺は思いつきり助走をつけて跳んでいる。犬夜叉の法則だ。俺は飛べん。

………

着いた。2時間掛かった。疲れた。

「どけ。霊夢。着いた。」

「ムニヤ……あと……5分……と4時間……」

「氏ね」

肘打ち。

「痛いっ！何よ！もつと優しく起こして！」

「それでお前は起きないだろ。なあ魔理さん？」

まさか……

「おじやまするぜ。」

やっぱ先行ってる！不味い！

心の準備も無しかよ！畜生。行くしかないのかよ……

あーあ……

紅と半鬼と吸血鬼1（後書き）

たまに紳士（色んな人が）なのでR - 15です。
ご了承ください。

紅と半鬼と吸血鬼2（前書き）

年末年始なのでまたまた遅れました。
サーセン。

紅と半鬼と吸血鬼2

紅魔館内部

門番いなかったが、中に居るのか？

まあいいや。

「魔理沙、お嬢さんはこのどこで待ってるって？」

「んー確か〜時計台だったかな？」

なんでそんな面倒な所に……

まあ室内を傷つけない工夫だろう。仕方ない。

ああその前に、

「咲夜さん。」

シュッ！

「及びでしょうか？」

呼べば来る。すごい人だ。しかし……

「余り時間を止めてるといけないですよ。

あなたの寿命は、俺の100分の1しかないんだし。」

「……申し訳ございません。以後気を付けます」

ちなみに咲夜さんに敬語を使うのは、

10代の人間だというのにこんなに仕事をこなせるといふ感心と尊敬からだ。

結構幻想郷の中でも年上な俺はほとんどタメだが、数少ない敬語相手の中の一人がこの人ってことだ。

……スタイルもいいいな。

また誰に言ってるんだか。俺は。

さて、そろそろ着くかな？

紅と半鬼と吸血鬼2（後書き）

さてリメイク前はバトルカット的なことをしたが……どうすつか
なあ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1687p/>

東方酒星記

2011年10月8日10時56分発行